

めぐみイエス・キリスト教会

2024年4月21日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第704号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

| | | |
|--------|------------------|--------|
| 【前奏祈祷】 | | |
| 【賛美Ⅰ】 | 新聖歌233「驚くばかりの」 | p. 354 |
| 【交読文】 | No.41 詩篇第127篇 | p. 912 |
| 【賛美Ⅱ】 | 新聖歌467「世の終りのラッパ」 | p. 752 |
| 【使徒信条】 | | |
| 【主の祈り】 | | |
| 【前回説教】 | | |
| 【賛美Ⅲ】 | オリジナル曲No.1「ビジョン」 | |
| 【聖書朗読】 | ルカの福音書4章38節～40節 | |
| 【礼拝説教】 | 《ペテロの姑(しゅうとめ)》 | |
| 【聖餐式】 | | |
| 【賛美Ⅳ】 | 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 | p. 235 |
| 【平和祈り】 | | |
| 【頌 栄】 | 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 | p. 85 |
| 【祝祷後奏】 | | |

※本日の聖書箇所(ルカの福音書4章38節～40節)

4:38 イエスは立ち上がって会堂を出て、シモンの家に入られた。シモンの姑がひどい熱で苦しんでいたもので、人々は彼女のことをイエスにお願いした。

4:39 イエスがその枕元に立って熱を叱りつけられると、熱がひいた。彼女はすぐに立ち上がって彼らをもてなし始めた。

4:40 日が沈むと、様々な病で弱っている者をかかえている人たちがみな、病人たちをみもとに連れて来た。イエスは一人ひとりに手を置いて癒やされた。

●ポイント1.「共観福音書における平行記事」から

※マルコの福音書1章29節～34節前半「ヤコブとヨハネ」(新約p.66)

1:29 一行は会堂を出るとすぐに、シモンとアンデレの家に入った。ヤコブとヨハネも一緒であった。

1:30 シモンの姑が熱を出して横になっていたのので、人々はさっそく、彼女のことをイエスに知らせた。

1:31 イエスはそばに近寄り、手を取って起こされた。すると熱がひいた。彼女は人々をもてなした。

1:32 夕方になり日が沈むと、人々は病人や悪霊につかれた人を見な、イエスのもとに連れて来た。

1:33 こうして町中の人戸口に集まって来た。

1:34 イエスは、様々な病気にかかっている多くの人を癒やされた。

●ポイント2.「やもめ」とは？

◎やもめ(アルマーナー) 夫と死別し、独身となっている女性。やもめは特別な衣服をつけ、その身を飾らず、荒布をまとい、髪を編まず、顔に油も塗らなかつた。神様はやもめに特別なあわれみを示し、人々にも正義と愛をもって彼らを扱うことを命じられた。

●ポイント3.「家」とは？「へりくだった者」とは？

※マルコの福音書2章1節「第一回ガリラヤ伝道後」(新約p.65下段)

2:1 数日たって、イエスが再びカペナウムに来られると、家におられることが知れ渡った。

※ヤコブの手紙4章6節「ヤコブの勧めから」(新約p.462下段)

4:6 神は、さらに豊かな恵みを与えてくださる」と。それで、こう言われています。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与える。」

◎先週の礼拝メッセージ【ガリラヤ宣教の始まり】

《故郷ナザレにおいて、公にメシア宣言された主イエスは、再びカペナウムに戻って来ました。実は、ルカは省略していますが、この後、弟子たちの再招集の場面が、マタイとマルコには描かれています。『イエスはガリラヤ湖のほとりを通り、シモンとアンデレが、湖で網を打っているのをご覧になった。イエスは彼らに言われた。「私について来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。また少し先に行き、ゼベダイの子ヤコブとヨハネをご覧になった。彼らは舟の中で網を繕っていた。イエスはすぐに彼らをお呼びになった。すると彼らは、父ゼベダイを雇い人たちと共に舟に残して、イエスの後について行った。』となっています。

さて、主イエスは、安息日ごとにカペナウムの会堂で教えられました。カペナウムの人々は、その教えと言葉に権威を感じたのです。

ヨハネは、『神が遣わした方は、神の言葉を語られる。神が御霊を限りなくお与えになるからである。』と、証ししています。

真の人であり、同時に真の神様でもあった主イエス様が、語られた言葉は、まさしく神の言葉であったということです。

さて、当時のユダヤの大きな問題の一つは悪霊でした。現在でも開発途上国では、実際問題として存在しています。しかし、先進国においては、悪霊は巧妙に姿を隠し、人々の目に触れなくても、私たちに対して、容赦なく攻撃を仕掛けて来ます。しかし、悪霊を恐れてはなりません。むしろ、悪霊のほうが、私たちを恐れています。

主は、十二弟子たちに、すべての悪霊を追い出し、病気を治す為の力と権威とを授けられました。私たちにも同じ力と権威が与えられています。使徒パウロは、「み言葉の剣を取りなさい」と勧めています。私たちには、武器としてみ言葉(聖書)が与えられています。そして、祈りによって、敵の火矢を消し去ることが出来るのです。》

お知らせ

※次回は4月28日(日)は午前10時から、通常通りに行ないます。